

定住化がもたらすブッシュマンの葬制と社会空間維持の変容に関する考察

平成 27 年入学
派遣先国：ボツワナ共和国
杉山 由里子

キーワード：ブッシュマン，社会変容，葬式，貧富の格差，アイデンティティ，社会空間

対象とする問題の概要

ボツワナ，ニューカデに生きるブッシュマンの生活は，政府による政策の影響を受け，伝統的な遊動・狩猟採集生活から，定住・集住生活へと大きく変化している。ボツワナの人口 190 万のうちブッシュマン人口は 3%以下[Suzman 2001]であり，周辺化され，また近代化の波にさらされる少数民族としても捉えられてきた。1979 年，政府による遠隔地開発計画により，ブッシュマンは政府の定めた定住地（カデ/Xade）で暮らし始めた。さらに 1997 年には，セントラル・カラハリ動物保護区外への再定住計画が実行された。定住によって，かつてのカラハリ半砂漠における自然に大きく依存した生活や儀礼は変化し，特に年々簡略化される傾向にあることが，これまでのブッシュマン研究者によって報告されている。だが，葬制に関する記述は断片的である。本研究では，人々が直面する“死”を取り上げ，ブッシュマン社会や文化を通時的に分析する。

研究目的

本研究は，ボツワナニューカデに暮らすブッシュマンの葬式の変化を通して，定住化政策によるブッシュマン社会の変容を明らかにすることを目的とする。グイ，ガナ，ナロの民族を調査対象とし，現在の葬式について記録するだけでなく，また昔の葬式の様子についても聞き取り調査を行った。

定住化と共に社会が大きく変化していく中で，葬式がどのように変化したのか，なぜそのような変化が起きたのか，またそれがどのように現在のブッシュマンの生き方に影響を与えているのかを明らかにすることが今回の調査目的である。約 3 ヶ月間ニューカデにて，主に聞き取り調査を中心に調査を行った。

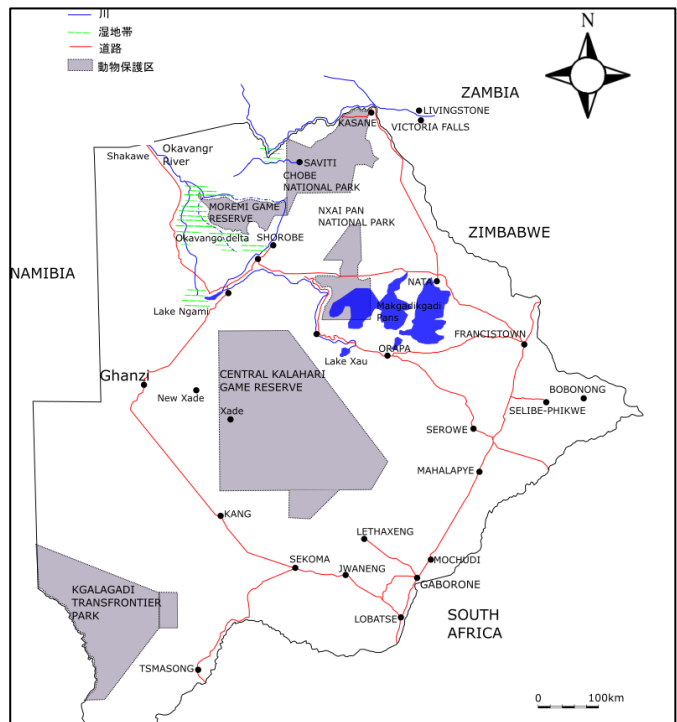


図 調査地地図

フィールドワークから得られた知見について

定住化以前の狩猟採集時代は「死後の世界を想定せず，死者が出た際も残された者達は遊動生活を続けた」という記録 [今村 2001] があり，死の概念が非常にシンプルであったと言える。一方，現在のブッシュマンは葬式の習慣を持つようになり，社会にとって重要な儀式になっていると言える。

狩猟採集時代の主な埋葬方法は、人が死んだ際、死者が普段使用していたスティンボックと呼ばれる皮のブランケット等で死者を包み、死者が普段寝ていた体勢（主に三角座り）で死者の土地に埋め、墓の目印として皿を置いていた。一方、現在は車で 2 時間ほどの都市ハンシー（Ghanzi）の葬儀屋で何日も遺体を保管し、親類を呼び寄せ、綺麗な棺で墓地に埋葬される。都市までの車での移動費や数日間の遺体保管費、棺代は政府から支給されるが、遺族が望めば自費でより豪華な車や棺、長期に渡る遺体保管に変更することができる。現在では、遺体を保管する日数、葬式をする土地の広さ、車や棺、葬式で出される食事、お墓等を通して、死者とその家族の財力や権力が可視化されるようになった。また、遺体が長期間保管できるようになった上に、民族によって埋葬する場が分けられるようになったことで、墓地が死者と参列者の民族的アイデンティティを再確認する場になったとも言える。

また、全ての葬式は、家畜や金を多く所有する数人のブッシュマンによって取りまとめられるようになった。彼らは、平等主義が徹底されていた従来の狩猟採集社会では排除されていた人々である。彼らは、貧富の格差が可視化されるようになった葬式や教会で代表者となることで、自身が社会から排除されず、むしろ社会の中心的存在になるように働きかけている。定住化後のブッシュマンの葬式は、遊動的狩猟採集民時代には存在しなかった貧富や権力の格差を集団で再認識する場、すなわち社会的階層を再編する場になったのである。



写真 1 遺体保管所にならぶ装飾のついた棺



写真 2 葬式の場面

今後の展開・反省点

今回の調査では、葬式の大きな変化に注目したが、葬式の場所やそこでの役割を決めるといった詳細な手順を遺族がどのように決断していくのか、またそれらがどのように社会と関わっているのかについては明らかにすることができなかつた。また今後は、ボツワナ人口の約 80% を占めるツワナの葬式とブッシュマンの葬式を比較することで、ブッシュマンの社会変容を読み解いていきたい。アイデンティティを再確認する場とも言える葬式が、なぜ現在のかたちに変容し得たのかを考察することで、彼らの死生観やその変化についても明らかにしていきたい。



写真 3 葬式で用いる牛肉とテントの準備



写真 4 ニューカデにある墓地

参考文献

Suzman, J. 2001. *An Introduction to the Regional Assessment of the Status of the San in Southern Africa*. Windhoek: Legal Assistance Centre.

今村薫. 2001. 「砂漠の水ーブッシュマンの儀礼と生命観」 田中二郎編『カラハリ狩猟採集民ー過去と現在』京都大学学術出版会, 175-229.